

I 大学薬学部の現況及び特徴

1 現況

(1) 大学薬学部・薬学科名

大阪薬科大学薬学部 薬学科（6年制）

薬科学科（4年制）

(2) 所在地

大阪府高槻市奈佐原4丁目20番地1号

(3) 学生数、教員および職員数（平成21年5月1日現在）

学生数：	学部	1,359名
	大学院	157名
職員数：	教員	62名
	事務系職員	45名

2 特徴

本学の創始は明治37年、当時既に薬業界の中心地であった大阪道修町に創立された大阪道修薬学校である。平成16年には創立100周年を迎えたが、その間帝国女子薬学専門学校、帝国薬学専門学校としてわが国の薬学教育に貢献し、学界、業界に多数の人材を輩出してきた。戦後、昭和25年には新制大阪薬科大学に昇格し薬学部薬学科を設置して現在に至っている。大学昇格後も堅実な学風のもと着々と大学としての内容の充実に努めてきた。昭和43年には製薬学科を加え2学科制とした。なお、製薬学科は平成16年度より生命薬学科へと改組した。ついで昭和50年に大学院薬学研究科博士前期課程、さらに昭和59年には同後期課程を設置した。平成8年、大学キャンパスを大阪府北部の高槻市に全面移転したのを契機に、平成11年大阪薬科大学附属薬局を高槻市内に開局し、また平成14年には大学院薬学研究科博士前期課程に臨床薬学コースを開設する等、私立薬科大学として順調な発展を遂げてきた。

平成18年4月1日より新しい薬学教育制度が発足したのを契機に、本学では従来から

培われてきた薬学の基礎学力強化の教育を土台として、充実した医療薬学領域の知識を持ち、医療が求めるより実践的な能力および医療人としての自負と倫理を備えた薬剤師の養成を目的とした教育を行う薬学部薬学科（6年課程）を設置した。

一方、薬学の学問的基盤を身につけ、薬剤師以外の職能につく薬学出身者もまた少なくなく、社会が多様な分野でこうした人材を必要としているのも事実である。大阪薬科大学出身者の卒後の進路も多方面にわたり、その半数以上は薬剤師以外の職能について活躍している。本学では、こうした多様な人材の育成を目的として、長い歴史の中で育み、着実にその成果を挙げてきた4年間の薬学系基礎教育の特色をさらに充実したものとし、さらに大学院での教育・研究への連繋も可能な教育課程として新たに薬学部薬科学科（4年課程）を設置した。

大阪薬科大学薬学部は薬学科・薬科学科の2学科による教育構想のもと、薬剤師養成教育を本来のあるべきものとしてより明確な理念のもとで確立するとともに、薬学教育の歴史と伝統に支えられた、社会が求める多様な人材の育成を目指し、ひいては学術の教育・研究の場として“大学”の基盤を固め、これを充実・発展させることを目指している。なお、薬学科・薬科学科への学科配属は、学生自身が自らの志向するところを自覚し得る時期として4年次進級時に行っている。そこで1～3年次においては、全学生共通の教育プログラムとしている。これは目的を異にするいずれの学科に進級するにしても、薬学を学ぶという目的においては相違なく、薬学出身者として修得しておかなければならない一般教養と薬学の学問的な基礎は共通であるとの認識に基づくものである。1～3年次では薬学科・薬科学科の別なく同一カリキュラムで授業を受ける。ここでは「基礎教育科目」「基礎薬学科目」「応用薬学科目」が中心となり、3年次には「医療薬学科目」が入ってくる。4年次でカリキュラムは両学科で異なることとなり、各学科の本格的な専門教育となる。薬学科では「医療薬学科目」が中心となり、さらに、5年次に行われる病院・薬局実務実習に備えての実務実習事前学習に当たる「臨床導入実習」、その他の授業科目が導入される。また、5、6年次では全員が各研究室に配属され、卒業研究に取り組むことになる。一方、

薬科学科では「応用薬学科目」が中心となるカリキュラムが組まれている。なお、薬科学科学生についても大学院修士課程修了後、希望者には薬剤師国家試験受験資格が取得できるようカリキュラムが組み立てられている。

本学は小規模ながら、薬系単科大学として施設・設備についても特に平成 21 年 2 月に竣工した新学舎（D 棟）を加え、教育・研究環境、学生生活環境の整備が進み、それらのアメニティについても好評を得ている。

公開教育講座・市民講座など生涯学習や地域との交流、他大学との連携なども極めて積極的に進めている。